

## はじめに

子どもを、事故や病気から守り、健やかに育てることは、大人の責務です。

しかし、事故による子どもの死亡や救急搬送が、多く発生しているという事実があります。疾病による子どもの死亡が、医療の進歩などにより、趨勢的に減少している中、子どもの健全な育成のためには、日常生活の中での事故を減らしていくことが重要です。特に、乳幼児期の子どもについては、周りの大人の注意で防げる事故も多いため、確実な対策をとることが重要です。

また、少子化、核家族化に伴い、保護者の子育てを支援するという意味でも、日常生活で事故を防ぐための手立てを示すことは、安心感の確保に役立ちます。

このたび、東京都は、保護者等が、子どもの事故を自分の身近にも起こりうる問題としてとらえ、日常の対策に役立てることを目的に、事故防止学習ソフト「見つけて防ごう！子どもにとっての身近な危険」を作成しました。

保護者等への事故防止の普及啓発については、身近な区市町村をはじめとした、地域の様々な網の目の中で行われることにより、実効性が高まります。

そのため、このハンドブックは、保健福祉医療に従事する方々によって、効果的な事故防止教育が行われるよう、作成しました。

子どもの事故を取り巻く現在の状況を、多角的な視点から整理するとともに、このたび作成した学習ソフトなどの具体的な活用法も示しています。

なお、学習ソフト及びハンドブックの作成に当たっては、「子どもの事故予防ソフト作成検討会」を設置し、様々な視点から検討を行いました。

このハンドブックが活用され、地域の実情に応じた効果的な事故防止教育により、子どもの健やかな成長に資することを願っております。

平成20年3月

福祉保健局少子社会対策部長

吉 岡 則 重

## 目次

I 乳幼児の事故防止とは	2
II 乳幼児の事故の現状	5
III 乳幼児期の事故の特徴と保護者への事故防止教育の重要性	12
IV 事故防止教育の教材とその特色	17
V 事故防止教育の実際	31
VI 事故種別ごとの特徴や防止策	33
VII 場面別の事故防止対策の例	56
VIII 事故発生時の応急手当	59
IX いざというときの相談先や普段からの準備	68
資料	70

## 「子どもの事故予防ソフト作成検討会」委員名簿

◎座長

◎中村 敬	大正大学 人間学部 人間福祉学科 教授
田中 哲郎	目白大学 人間学部 人間福祉学科 教授
松平 隆光	社団法人 東京都医師会 理事
西田 佳史	独立行政法人 産業技術総合研究所 デジタルヒューマン研究センター 人間行動理解チーム長
塚越 匡史	独立行政法人 国民生活センター 相談調査部 危害情報室
横矢 真理	特定非営利活動法人 子どもの危険回避研究所 理事長
小野 裕嗣	特定非営利活動法人 キッズデザイン協議会 専務理事
土屋 百合	練馬区 石神井保健相談所 地域保健係
宮村 陽子	西東京市 子育て支援部 子ども家庭支援センター長
阿出川 悟	東京消防庁 防災部 生活安全課長 ※任期 ～平成19年9月30日
松川 茂夫	東京消防庁 防災部 生活安全課長 ※任期 平成19年10月1日～
芳賀 和義	東京都 生活文化スポーツ局 消費生活部 商品事故分析担当課長
高野 豪	東京都 青少年・治安対策本部 総合対策部 企画調整担当副参事
川又 協子	東京都 福祉保健局 保健政策部 地域保健推進担当副参事

事務局：東京都福祉保健局少子社会対策部子ども医療課